

# シリーズ その道の達人に訊く ①



Professional No.001

YUICHI SATO

毎回、その分野に精通した「匠」を招き、その道のディープな部分を掘り下げる、知的探求コラム。



昨年、お笑い芸人ピースの又吉直樹さんが芥川賞を受賞し、文学賞が一躍、普段小説をあまり手にしない人の間でも話題になりました。芥川賞・直木賞などの歴史ある文学賞と並び本屋大賞は創設12年にも関わらず注目度が高く、多くの大賞作品が映画化されています。先に映画を観て、それから本を読むとまた少し違った角度で楽しめるのも魅力かもしれません。そこでもう少し、本屋大賞について掘り下げてみようと思います。餅は餅屋ならぬ、本は本屋ということで新潟市役所前にお店を構える北書店代表の佐藤雄一さんに、書店員の視点からみる本屋大賞や本の疑問・質問にお答えいただきました。

## Q1) そもそも本屋大賞はどうして設立されたのでしょうか。

A1) 出版業界は若者の本離れもあり、本が売れない時代と言われ低迷傾向にあります。出版市場の不況は書店としても死活問題となります。本を売る立場の書店から売れる本を作っていく、お祭りのようなイベントをしたいというまさに現場の書店員から発案されました。

## Q2) 全国の書店員(アルバイトやパートを含む)が選考委員の対象だそうです。

A2) 新刊を扱っている書店の書店員が対象となります。書店で働く人はアルバイトやパートの割合が多いと思います。投票参加の可否、投票者は本屋の判断となります。北光社の店長だった頃、第一回目の選考依頼を忙しさにかまけて参加しなかったら、以降は声がかからなかった(笑)多忙の業務の中で秋葉区の英進堂さんは毎年参加されていて素晴らしいなと思います。

## 【選考から大賞決定までの流れ】

- ①まず1次投票が行われ、1人3作品を選ぶ。
- ②1次投票の集計結果で、10作品がノミネート。
- ③2次投票では、ノミネートされた10作品を全て読む。
- ④10作品の中から1~3位と順位をつけて、推薦理由を記載し投票する。
- ⑤2次投票の集計結果で、毎年1回4月に本屋大賞が決定。

## Q3) 出版社の営業力も結果に多少の影響はありますか？

A3) 確かに営業力の関係がゼロではないでしょう。しかし私見を言わせてもらえば、既存の文学賞への不満から湧き上がった

現場の声を掲げるといこの賞がもつ本来の趣旨からすると、過剰な営業はナンセンスです。

## Q4) 大賞作品が映画化されるのはどうして？

A4) 万人に愛されるポテンシャルの高い作品で娯楽性重視の傾向が強いのは確かです。それだけこの賞が、普段本を読まない層にも読むきっかけとして大きな話題となり定着してきたことだと思います。

## 【大賞受賞作の映画化9作品】

著者「受賞作品名」 劇場公開年月日

- 小川洋子「博士の愛した数式」  
2006年1月21日
- 恩田陸「夜のピクニック」  
2006年9月30日
- リリー・フランキー「東京タワー ～オカンとボクと、時々、オトン～」  
2007年4月14日
- 伊坂幸太郎「ゴールデンスランバー」  
2010年1月30日
- 湊かなえ「告白」  
2010年6月5日
- 沖方丁「天地明察」  
2012年9月15日
- 東川篤哉「謎解きはディナーのあとで」  
2013年8月3日
- 三浦しをん「舟を編む」  
2013年4月13日
- 百田尚樹「海賊とよばれた男」  
2016年12月10日予定

※ノミネート作の映画化は30作品以上もあります。

## Q5) これまでの出会った本のなかで「最高の一冊」を教えてください。

A5) 10代の頃はほとんど本を読まなかったんですが、あるときから常になにかしらの文庫本を携帯し、ヒマさえあれば読むようになりました。寝食を忘れて読みふけた

最初の小説は、太宰治の「正義と微笑」でした。役者を志す少年の、日々の些細な喜びや苦悩が日記形式で綴られた中篇です。最初に「人間失格」や「斜陽」などを読んだので、ささやかな希望に向かって終わるこの作品は印象に残りました。ただ最高な本はたくさんあります。「最高な一冊はこれ」と、明確に言い切れない自意識は、或いは太宰の影響もあるでしょうね。

## INFORMATION



## 北書店 - north book store -

代表 佐藤 雄一

佐藤さんは、平成22年1月末で惜しまれつつ閉店した新潟市中央区古町の「北光社」の最後の店長。廃業される予定だった什器類を引き取り、北書店を開店。店内には年季の入った机や時計がさりげなく置かれている。どこか「懐かしい」空気感漂う北書店で、この秋の1冊を見つけてみては。新潟市共通商品券・トキメキカードどちらも利用可能店。

●営業時間 月～金 10:00～20:00  
土・日・祝 12:00～20:00

●定休日 第1・第3日曜日

●TEL&FAX 025-201-7466

●新潟市中央区医学町通2番町10-1

ダイアパレス医学町101

http://kitashoten.net/

明日使える  
...かもしれない  
豆知識



本屋に行くときトイレに行きたくなる症状を「青木まりこ現象」と呼ぶ。そしてその名付け親は作家の椎名誠である。

1985年に「本の雑誌」編集者へ送られた「理由は不明だが、書店に行くたびにトイレに行きたくなる」という投稿がきっかけとなり、当時編集長だった椎名誠が面白がって特集記事を組んだとことろ、大反響を呼ぶ。その後椎名誠が投書者の名にちなみ「青木まりこ現象」と命名。

## NEXT >>>> Professional No.002

冬号は、新潟市中央区南万代「味の関所」高沢 幸栄さんです。年末年始の食卓には欠かせないアノ食材について掘り下げます。